

Hop Step Jump

8

中学校授業づくり③④

大教大附属池田中学校での
授業づくり研修を振り返って

初任研第 7, 8 回(8 月 10 日)は、一日じつくりと、教科別に分かれて研修が行われました。今年は、大阪教育大学附属池田中学校と、豊中市立第二中学校にお世話いただきました。

教材研究は正直大変で面倒だと思っていましたが、本日の研修でいかに大切か分かりました。同じ初任の先生方と話しているうちにとても楽しくなっていて、やはり社会は面白いし好きだなあと思いました。今後、教職をやめるまでずっと教材研究に力を注いでいきたいです。

受講者がこれほどの変化をしていることに驚きました。研修や授業の前後で受講者がどのように変容したのか。とても大切な要素ですが、研修に参加して、教材研究を面倒に感じていた自分が、社会を好きだった自分や楽しさを思い出し、今後、教材研究に力を入れたいという姿に変化している。とてもうれしい変容です。そこには附属中の先生の授業に対する熱い思いがあり、同じ初任の先生方との対話があり、自分自身との対話があったのではないのでしょうか。この学びの姿は今言われているアクティブラーニングや、協調学習(collaborative learning)とも重なって見えます。今回参加いただいた 2・3 年目の先生も、

理科の研修としては、2 年前の初任者研修以来で、本当に参考になりました。問いかけの方法や、目的、黒板の使い方など、見直すことができ、改めて研修に参加し学ぶことを再認識しました。

教師自身が学び続ける存在として、この感覚はとても大切ではないのでしょうか。次の先生も、自分の指導案を仲間に説明しながら、基本的だけれどもとても大切なことを、自ら掘んだのではないのでしょうか。教えられるだけでは自分のものになっていなかったのです。

本日の研修で実際に教案を書き、どのように授業を展開していくかを説明しましたが、その時に、知識を教え込む授業になっているなと感じました。私は、子どもたちに考えさせる発問が苦手でいつも質問になってしまうのが授業の課題でしたが、今日の講義で、本時の目標を設定した上で、中心発問を決めると、内容が深まることを知ったので、実践していきたいと思います。

教科書の知識を一斉授業で伝えるだけなら「発問」は必要ないでしょう。情報を整理しわかりやすく説明すればいいわけです。でも今求められているのは、教科書や資料、仲間との対話を通して、子どもたちが「学ぶ」授業です。そして教師の仕事は、そんな学びをデザインすることです。子どもたちを学びに向かわせるための大切な問いかけが「発問」なのです。次の先生も目標の大切さに改めて気が付いたようです。

石川先生の授業を見させていただいて、「どんな生徒に育てたいのか」「どんな力をつけさせたいのか」というゴールイメージをしっかりとぶれずに持つことに大切さを改めて学ばせていただきました。さっそく自作の教材をもう一度見直したいと思いました。

自分は自分の教科を通して子どもたちとどう向き合い、どう育てたいのか。私たちの仕事は、そこに至るためのストーリーを作ることであり道案内人なのでしょう。

生徒の発問を中心に授業が進んでいく和田先生の授業は、本当に参考になりました。そのためのしっかりとした準備や教材研究が自分ではできていないので、改めたいと思います。吉岡先生の評価の話は、自分がとても戸惑っているところなので、少しすっきりしました。明確な評価規準を設けて授業をしていきたいと思います。

和田先生自身が生き生きと学んでいる姿に私も感動しました。「おくのほそみち」の教材研究のために岐阜県の資料館まで足を運んだそうです。そんな姿を生徒もちゃんと見抜いています。教室の後ろに、参考のために、生徒の授業ファイルが置かれていました。その中には生徒の「学びの履歴」がぎっしりと収められていました。先生の授業は、生徒の問いからはじまります。そして生徒が発表する場面では、しっかりと事前のケアがあります。そんな安心感や信頼感が先生の語りからうかがえ、その学びデザインはとても素敵でした。

さて、「授業づくり⑤」では生徒の学びの姿に注目です。